

野菜類－豆類(種実、ただし、だいず、あずき、いんげんまめ、えんどうまめ、らっかせい、そらまめを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						灰色かび病	菌核病
1	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	○

野菜類－豆類(種実、ただし、だいず、いんげんまめ、えんどうまめ、らっかせいを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						菌核病
1	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○

野菜類－豆類(種実、ただし、だいずを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						うどんこ病	褐斑病	炭疽病
1	ベルコート水和剤		普	イミノクタジン	M7	○	○	○

野菜類－豆類(種実、ただし、らっかせい、あずき、いんげんまめを除く)－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						菌核病
1	カンタスドライブフロアブル		普	ボスカリド	7	○

野菜類—豆類(種実、ただし、だいずを除く)—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						タネバエ	ネキリムシ類
1	カルホス粉剤		普	イソキサチオン	1B	○	○

野菜類—豆類(種実、ただし、らっかせい、だいず、あずき、いんげんまめ、えんどうまめを除く)—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						アブラムシ類
1	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	○

野菜類—豆類(種実、ただし、だいず、あずき、いんげんまめを除く)—その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						タネバエ	苗立枯病
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	F:M3	○	○

野菜類—豆類(種実、ただし、いんげんまめ、えんどうまめを除く)—その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						ハト	カラス
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	F:M3	○	○

野菜類－豆類(種実)－だいず－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病虫害雑草名				
						紫 斑 病	葉 焼 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	べ と 病
1	Zボルドー		普	銅	M1	○	○	-	-	-
2	バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	-	○	-	-	-
3	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	○	-	○	○	-
4	プロポーズ顆粒水和剤		普	1.ベンチアハラルブイソ プロピル、2.TPN	40、M5	○	-	-	-	○
5	ベンレートT水和剤20		普	1.チウラム 2.ベノミル	M3、1	○	-	-	-	-
6	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	-	○	-	-
7	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	○	○	-

* Zボルドーは野菜類のべと病に登録あり

野菜類－豆類(種実)－だいず－殺虫殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名・使用目的						
						ア ブ ラ ム シ 類	タ ネ バ エ	リ ゾ ク ト ニ ア 根 腐 病	茎 疫 病	黒 根 腐 病	紫 斑 病	子 食 害 忌 避
1	クルーザーMAXX		普	【*1】	I:4A F:12、4	○	○	○	○	○	○	○

【*1】1. チアトキサム 2. フルジオキシニル 3. メタラキシル及びメタラキシルM

野菜類－豆類(種実)－だいず－その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名		
						タ ネ バ エ	紫 斑 病	苗 立 枯 病
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	F:M3	○	○	○

4-(4) だいで (野菜類、豆類 (種実)、豆類に登録のある農薬も使用可能)

病虫害名	防除方法	参考事項
紫斑病	<p>播種前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 無病種子を用いる。 2. 適用薬剤を使用する。 <p>開花終期～子実肥大中期</p> <p>適用薬剤を使用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長雨の場合は、肥大後期まで防除を行う。 ・ベンゾイミダゾール系薬剤耐性菌が確認されているので、系統の異なる薬剤をローテーションして使用する。
菌核病	<p>播種前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 密植や窒素質肥料の過用を避ける。 2. 連作を避ける。 3. 水田化が可能なほ場では田畑輪換を行う。 <p>生育期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開花後、適用薬剤を使用する。 2. 被害茎葉は菌核が脱落しないように集め、処分する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロブルール水和剤は、開花始めから開花5日後までに使用する。 ・開花始めの10～15日目に第1回散布。その後は発病程度に応じて10日ごとに散布する。
葉焼病	<p>播種前</p> <p>種子は、発病のないほ場から採種する。</p> <p>生育期</p> <p>適用薬剤を使用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発病した畑では、連作しない。 ・台風後は多発しやすくなるので、防除を行う。
茎疫病	<p>播種前</p> <p>過湿地の連作を避ける。</p> <p>生育期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 排水を良好にする。 2. 罹病株は抜き取ってすみやかに処分し、残渣をほ場に残さない。 	
炭疽病	<p>播種前</p> <p>種子は、発病のないほ場から採種する。</p> <p>生育期</p> <p>罹病株は抜き取ってすみやかに処分し、残渣をほ場に残さない。</p>	
ウイルス病	<p>播種前～生育期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 無病種子を用いる。 2. 発病株を認めたら、直ちに抜き取る。 3. 発病株からの伝染防止のため、アブラムシ類の防除を徹底する。 	
べと病	<p>播種前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連作や密植を避け、風通しをよくする。 2. 発病ほ場は深耕して表土を深くすき込む。 <p>生育期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開花10日前～子実肥大期に適用薬剤を散布する。 2. 発生が拡大する場合は追加防除を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨が長く続く年に発病が多い。
タネバエ	<p>播種前</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 播種前の未熟有機物の施用は避ける。 2. 適用薬剤を使用する。 <p>生育中</p> <p>適用薬剤を使用する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・有機物の施用は、秋期に行う。

各論作成日:2023年11月10日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

病害虫名	防除方法	参考事項
アブラムシ類	生育期 発生状況を把握し、適期に適用薬剤を使用する。	
ハスモンヨトウ	生育期 1. 卵塊や若齢幼虫は、見つけしだい捕殺する。 2. 早期発見、早期防除に努める。 3. 適用薬剤を使用する。 (ハスモンヨトウの防除対策の項参照)	
コガネムシ類	生育期 発生状況を把握し、適期に適用薬剤を使用する。	
ダイズサヤタマバエ	開花終期～莢伸長期 開花盛期7日後とその後7日から10日目に適用薬剤を使用すると効果が高い。	
マメシンクイガ	生育期 開花終期～莢伸長期に、適用薬剤を使用する。	
シロイチモジ マダラメイガ	生育期 開花終期～莢伸長期に、適用薬剤を使用する。	
カメムシ類	生育期 子実肥大初期から子実肥大終期に、適用薬剤を使用する。	
ハダニ類	生育期 1. 早期発見、早期防除に努める。 2. 適用薬剤を使用する。	

野菜類－豆類(種実)－あずき－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						褐斑細菌病	茎腐細菌病	灰色かび病	菌核病	炭疽病	さび病
1	カスミンボルドー		普	1. カスガマイシン 2. 銅	24、M1	○	○	-	-	-	-
2	コサイド3000		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-
3	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	-	○	○	○	○
4	フロンサイドSC		普	フルアジナム	29	-	-	○	○	○	-

野菜類－豆類(種実)－あずき－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名										
						アズキノメイガ	アブラムシ類	フキノメイガ	ヨトウムシ	ナミハダニ	ハスモンヨトウ	ノメイガ類	ハダニ類	カメムシ類	タネバエ	ツメクサガ
1	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	オルラン水和剤		普	アセフェート	1B	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-
3	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	○	-	-	-	-	○	-	○	-	-	-
4	コテツフロアブル		劇	クロルフェナビル	13	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-
5	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-
6	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-
7	トクチオン乳剤		普	プロチオホス	1B	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○
8	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンプロックス	3A	-	○	-	-	-	○	○	-	○	-	-
9	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	-	○	-	-	-	-	○	-	-	-	-

野菜類－豆類(種実)－あずき－その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名		
						褐斑病	炭疽病	苗立枯病
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	M3	○	○	○

4-(5) あずき（野菜類、豆類（種実）、豆類に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
褐斑病	播種前 1. 無病種子を用いる。 2. 適用薬剤で種子に塗沫処理する。	
モザイク病	播種前～生育期 1. 無病種子を用いる。 2. 採種は、健全株から行う。 3. 発病株からの伝染防止のため、アブラムシ類の防除を徹底する。	
アブラムシ類	播種時～生育期 発生状況を把握し、適期に適用薬剤を使用する。	
フキノメイガ	開花終期 適用薬剤を使用する。	
センチュウ類	播種前 1. 連作を避ける。 2. 発生状況に応じて、土壌消毒を行う。 (土壌くん蒸剤の項参照)	

野菜類－豆類(種実)－ベにばないんげん－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						灰色 かび 病
1	フロンサイド水和剤		普	フルアジナム	29	○

野菜類－豆類(種実)－ベにばないんげん－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						ハダ ニ類
1	ダニトロンフロアブル		普	フェンピロキシメー ト	21A	○

4-(6) べにばないんげん（野菜類、豆類（種実）に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
菌核病	播種前 1. 多肥・密植・過繁茂を避ける。 2. 連作を避ける。 生育期 適用薬剤を使用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤が株全体によくかかるように散布する。 ・ 罹病した株はほ場外へ持ち出して処分する。
角斑病	播種前 1. 多肥・密植・過繁茂を避ける。 2. 種子は健全株から採種したものを使用する。 3. 連作を避ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 罹病した茎葉や莢が越冬源となるので、この処分を徹底する。
萎凋病	播種前 種子は健全株から採種したものを使用する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発病株は外見上、健全であっても、維管束の褐変がみられる。 ・ 本病原菌の最適生育温度は28℃である。 ・ 発病は温度環境に大きく影響され、標高800m程度の圃場では発病しやすく、標高1000mを超える圃場では発病頻度が低い。
マメホソクチゾウムシ	播種前 連作を避ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成虫は体長約3mm。黒色の洋なし形で年1回発生し、成虫で越冬する。ベニバナインゲンでは、7月上旬ころから発生し被害が増える。
タネバエ	播種前 1. 播種前の未熟有機物の施用は避ける。 2. 播種時に適用薬剤を土壌に処理する。 3. 雨上がり後すぐに播種しない。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有機物を施用する場合には、播種する3週間以上前に施用する。
フキノメイガ コウモリガ	耕種的防除 ほ場の周囲や畝間の雑草に害虫が生息するので、雑草防除に努める。	<p>幼虫による被害の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地際付近の茎に食入する。 ・ 導管まで食害され、被害が大きい場合は株全体が枯死することがある。 ・ 食入された茎から穿孔粉が出ているので、被害株はわかりやすい。

※ ベニバナインゲンは草丈が高い作物なので、薬剤散布の際は周辺ほ場への飛散に留意する。

野菜類－豆類(種実)－いんげんまめ－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						かさ枯病	炭疽病	灰色かび病	菌核病	角斑病	苗立枯病
1	Zボルドー		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-
2	アミスター20フロアブル		普	アゾキシストロビン	11	-	○	○	○	○	-
3	オーソサイド水和剤80		普	キャプタン	M4	-	○	-	-	-	-
4	カスミンボルドー		普	1. カスガマイシン 2. 銅	24、M1	○	-	-	-	-	-
5	カッパーシン水和剤		普	1. カスガマイシン 2. 銅	24、M1	○	-	-	-	-	-
6	カンタスドライフロアブル		普	ボスカリド	7	-	-	○	○	-	-
7	ゲッター水和剤		普	1. ジェトフェンカルブ 2. チオファネートメチル	10、1	-	○	○	○	-	-
8	コサイド3000		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-
9	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	-	○	-	-	-	-
10	スミブレンド水和剤		普	1. ジェトフェンカルブ 2. プロシミドン	10、2	-	-	○	○	-	-
11	セイビアーフロアブル20		普	フルジオキシニル	12	-	-	○	○	-	-
12	ドイツボルドーA		普	銅	M1	○	-	-	-	-	-
13	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	-	○	-	○	○	○
14	ファンタジスタ顆粒水和剤		普	ピリベンカルブ	11	-	○	○	○	-	-
15	フルピカフロアブル		普	メパニピリム	9	-	-	○	-	-	-
16	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	-	-	-	○	○	-
17	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	○	○	-	-

野菜類-豆類(種実)-いんげんまめ-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名																	
						アブラムシ類	インゲンテントウ	フキノメイガ	ハダニ類	マメシクイガ	カメムシ類	シロイチモジマダラメイガ	ダイズサヤマバエ	マメヒメサヤマシガ	タネバエ	コガネムシ類幼虫	ハモグリバエ	アザミウマ類	コガネムシ類	ナモグリバエ			
1	アクタラ顆粒水溶剤	抑制	普	チアメトキサム	4A	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	アグロスリン乳剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3	ウララDF		普	フロニカミド	29	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6	コロマイト乳剤	抑制	普	ミルベメクチン	6	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7	サイアノックス乳剤		普	CYAP	1B	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	○	-	-	○	○	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-
10	ダニロンフロアブル		普	フェンピロキシメート	21A	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
11	マラソン乳剤		普	マラソン	1B	○	○	-	○	○	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	○	○	○

野菜類－豆类(種実)－いんげんまめ－殺虫殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名			
						アブラムシ類	タネバエ	リゾクトニア根腐病	苗立枯病(ピシウム菌)
1	クルーザーMAXX		普	【*1】	I:4A F:12、4	○	○	○	○

キソニル 3. メタラキシル及びメタラキシルM

野菜類－豆类(種実)－いんげんまめ－その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						ハト	カラス	キジバト	炭疽病	苗立枯病	タネバエ
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム		○	○	○	○	○	○

4-(7) いんげんまめ（野菜類、豆類（種実）、豆類に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
菌核病	播種前 1. 多肥・密植・過繁茂を避ける。 2. 連作を避ける。 生育期 適用薬剤を使用する。	
根腐病	播種前 1. 連作を避ける。 2. 土壌消毒を行う。（土壌くん蒸剤の項参照） 生育期 早期に株元に土寄せを実施する。	
モザイク病	播種前 種子は健全株から採種したものを使用する。 播種時 1. アブラムシの防除を行う。 2. 適用薬剤を土壌に処理する。 苗床及び定植後 1. アブラムシの防除を行う。 2. 適用薬剤を使用する。	
ハダニ類	生育期 発生初期に適用薬剤を使用する。 （ハダニ類防除薬剤の特性の項参照）	
タネバエ	播種前 1. 播種前の未熟有機物の施用は避ける。 2. 播種時に適用薬剤を土壌に処理する。 3. 雨上がり後すぐに播種しない。	・有機物を施用する場合には、播種する3週間前までとする。

野菜類－豆類(種実)－らっかせい－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名				
						そうか病	褐斑病	灰色かび病	黒渋病	白絹病
1	ジマンダイセン水和剤		普	マンゼブ	M3	○	○	-	-	-
2	ダコニール1000		普	TPN	M5	-	○	-	-	-
3	トップジンM水和剤		普	チオファネートメチル	1	○	○	○	○	-
4	トップジンM粉剤DL		普	チオファネートメチル	1	-	○	-	-	-
5	フロンサイド粉剤		普	フルアジナム	29	-	-	-	-	○
6	ベンレート水和剤		普	ベノミル	1	○	○	-	○	-
7	ロブラール水和剤		普	イプロジオン	2	-	-	○	-	-

野菜類－豆類(種実)－らっかせい－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						コガネムシ類幼虫	ヒョウタンゾウムシ類
1	オンコル粒剤5		普	ベンフラカルブ	1A	○	-
2	トクチオン細粒剤F		普	プロチオホス	1B	○	○

穀類－雑穀類－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						ア ワ ノ メ イ ガ
1	エスマルクDF	抑制	-	BT	11A	○

穀類－そば－殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						立 枯 病
1	リゾレックス粉剤		普	トルクロホスメチル	14	○

穀類－そば－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名
						ハ ス モ ン ヨ ト ウ
1	ゼンターリ顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	○
2	ロムダンフロアブル	抑制	普	テブフェノジド	18	○

4-(9) そば（穀類、雑穀類に登録のある農薬も使用可能）

病害虫名	防除方法	参考事項
立枯病	播種前、生育期 1. 排水をよくする。 2. 発病ほ場では、3~4年間栽培しない。 3. 適用薬剤を使用する。	・窒素質肥料は、控えめにする。
疫病	播種前、生育期 1. 排水をよくする。 2. 発病ほ場では、3~4年間栽培しない。	・窒素質肥料は、控えめにする。
ハスモンヨトウ	生育期 1. 卵塊や若齢幼虫は、見つけしだい捕殺する。 2. 早期発見、早期防除に努める。 3. 適用薬剤を使用する。 (ハスモンヨトウの防除対策の項参照)	

穀類—とうもろこし—殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						すす紋病
1	チルト乳剤25		普	プロピコナゾール	3	○

穀類—とうもろこし—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名					
						ア ワ ノ メ イ ガ	ア ワ ヨ ト ウ	ア ブ ラ ム シ 類	ネ キ リ ム シ 類	オ オ タ バ コ ガ	ツ マ ジ ロ ク サ ヨ ト ウ
1	アグロスリン乳剤	抑制	劇	シペルメトリン	3A	○	○	○	-	-	-
2	アディオオン乳剤	抑制	普	ペルメトリン	3A	○	-	○	-	-	-
3	エルサン乳剤		劇	PAP	1B	○	-	-	-	-	-
4	ガードベイトA	抑制	普	ペルメトリン	3A	-	-	-	○	-	-
5	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	-	-	-	○	○
6	スミチオン乳剤		普	MEP	1B	○	-	-	-	-	○
7	デルフィン顆粒水和剤	抑制	-	BT	11A	-	-	-	-	○	○
8	トレボン乳剤	抑制	普	エトフェンブロックス	3A	○	○	-	-	-	○
9	パダンSG水溶剤	抑制	劇	カルタップ	14	○	-	-	-	-	○
10	パダン粒剤4	抑制	劇	カルタップ	14	○	-	-	-	-	-
11	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	○	-	-	-	○	○

穀類—とうもろこし—その他

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						カラス	キジ	スズメ	ハト	キジバト	ムクドリ	苗立枯病
1	キヒゲンR-2フロアブル		普	チウラム	M3	○	○	○	○	○	○	○

穀類—とうもろこし—とうもろこし(子実)—殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名
						すす紋病
1	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○

穀類—とうもろこし—とうもろこし(子実)—殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名						
						オオタバコガ	ヨトウムシ	アワノメイガ	ネキリムシ類	アブラムシ類	ムギクビレアブラムシ	カメムシ類
1	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	○	○	-	-	-	-	-
2	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	-	-	○	○
3	カルホス乳剤		劇	イソキサチオン	1B	-	-	○	-	-	-	-
4	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	-	-	-	○	○
5	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	○	○	-	-	-
6	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	-	-	○	-	-

穀類-とうもろこし-未成熟とうもろこし-殺菌剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名	
						すす紋病	紋枯病
1	シグナムWDG		普	1.ピラクロストロピン 2.ボスカリド	11,7	○	-
2	トリフミン水和剤		普	トリフルミゾール	3	○	-
3	バリダシン液剤5		普	バリダマイシン	U18	-	○
4	リゾレックス水和剤		普	トルクロホスメチル	14	-	○
5	モンガリット粒剤		普	シメコナゾール	3	-	○

穀類-とうもろこし-未成熟とうもろこし-殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県指定	製剤毒性	有効成分の種類	作用機構分類	病害虫雑草名							
						オオタバコガ	ヨトウムシ	アブラムシ類	アワノメイガ	カメムシ類	ネキリムシ類	ハダニ類	ツマジロクサヨトウ
1	アニキ乳剤		普	レピメクチン	6	○	-	-	-	-	-	-	○
2	アフーム乳剤	抑制	普	エマメクチン安息香酸塩	6	○	○	-	-	-	-	-	○
3	アルバリン顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	○	-	-	-
4	ウララDF		普	フロニカミド	29	-	-	○	-	-	-	-	-
5	オルトラン水和剤		普	アセフェート	1B	-	-	○	○	-	-	-	-
6	カスケード乳剤	抑制	普	フルフェノクスロン	15	○	-	-	○	-	-	-	○
7	スタークル顆粒水溶剤	抑制	普	ジノテフラン	4A	-	-	○	-	○	-	-	-
8	ダイアジノン粒剤5		普	ダイアジノン	1B	-	-	-	○	-	○	-	-
9	ディアナSC		普	スピネトラム	5	○	-	-	○	-	-	-	-
10	デナポン粒剤5		普	NAC	1A	-	-	-	○	-	-	-	-
11	テルスターフロアブル	抑制	劇	ピフェントリン	3A	-	-	-	-	-	-	○	-
12	ベネビアOD	抑制	普	シアントラニリプロール	28	○	-	-	○	-	-	-	○
13	ヨーバルフロアブル	抑制	普	テトラニリプロール	28	○	-	-	○	-	-	-	○
14	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	-	-	○	-	-	-	-	-

野菜類－ヤングコーン－殺虫剤

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。
更新年月日:2023/11/10

	農薬の名称	群馬県 指定	製剤 毒性	有効成分の種類	作用機構 分類	病害虫雑草名				
						ア ブ ラ ム シ 類	オ オ タ バ コ ガ	ヨ ト ウ ム シ	ア ワ ノ メ イ ガ	ツ マ ジ ロ ク サ ヨ ト ウ
1	アニキ乳剤		普	レピメクチン	6	-	○	-	-	-
2	アフーム乳剤		普	エマメクチン安息 香酸塩	6	-	○	○	-	-
3	コテツフロアブル		劇	クロルフェナピル	13	-	○	-	-	○
4	フェニックス顆粒水和剤	抑制	普	フルベンジアミド	28	-	○	-	○	○
5	モスピラン顆粒水溶剤	抑制	劇	アセタミプリド	4A	○	-	-	-	-

4-(10) とうもろこし（穀類、雑穀類に登録のある農薬も使用可能）

※とうもろこしは収穫するステージにより、穀類（種子を収穫するもの（とうもろこし（子実））、ある程度成熟した雌穂を収穫するもの（未成熟とうもろこし））と野菜類（幼果を収穫するもの（ヤングコーン））に分類され、農薬登録上は別の作物となるため注意する。

病害虫名	防除方法	参考事項
すじ萎縮病 縞葉枯病	播種前 シルバーやストライプ入りのマルチフィルムを用いてヒメトビウカの飛来を防止する。	<ul style="list-style-type: none"> ・5月中旬～6月上旬の播種で多発しやすい。 ・ヒメトビウカにより伝搬される。
黒穂病	播種前 1. 輪作を行い、ほ場排水の改善に努める。 2. 窒素肥料の多用を避ける。 生育期 発病株は孢子が飛散する前に抜き取り処分する	<ul style="list-style-type: none"> ・乾燥した晴天が続けば発病は少ない。 ・病原菌は糸状菌で、発病株を堆肥化しても完全に死滅することはない。
すす紋病	播種前 1. 輪作を行い、ほ場排水の改善に努める。 2. 窒素、カリ肥料が不足しないように十分施用する。 生育期 1. 発病初期に適用薬剤を散布する。 2. 被害茎葉は丁寧に集めて除去するか堆肥化して腐熟させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・低温多湿、肥切れで多発しやすい。 ・病原菌は被害茎葉中で越冬し、翌年孢子が風で運ばれて発病する。 ・発病は品種間差がある。
倒伏細菌病	播種前 輪作を行い、ほ場排水の改善に努める。 生育期 1. 被害株を速やかに処分する。 2. 病原菌は害虫の食痕などから侵入するので、食入性の害虫を防除する。	<ul style="list-style-type: none"> ・梅雨期から初夏にかけて発病し、高温多湿で多発する。
紋枯病	生育期 1. 輪作を行い、ほ場排水の改善に努める。 2. 地際部から発病して上位葉へ進展するため、株元に十分かかるように散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季に降雨や曇天が続くと発生しやすい。 ・菌糸及び菌核の形で土中に入り、伝染源になる。
アワノメイガ	生育期 雄穂の抽出数日前から7～10日ごとに2～3回適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫がスイートコーンの茎や穂などを食害し、出穂頃から被害が発生する。
ツマジロクサヨトウ	生育期 1. 新葉の葉鞘基部に潜り込んでいる幼虫に届くように、株の上部まで適用薬剤を散布する。 2. 幼虫や蛹の残存を防ぐため、収穫後は速やかに耕うんする。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は、軟らかい葉を好んで食害する傾向にあり、白い食害痕、不定形の穴、茎頂部の葉に列状の穴などの特徴的な食害痕を残す。
オオタバコガ	(オオタバコガの防除対策の項参照)	
アブラムシ類	播種前 シルバーやストライプ入りのマルチフィルムを用いてアブラムシ類の飛来を防止する。 生育期 生育初期および雄穂や雌穂の出穂時に、発生が多くなる恐れがある場合は適用薬剤を散布する。	<ul style="list-style-type: none"> ・葉裏などに群生して吸汁し、被害を受けた葉は不規則にちぢれて奇形となる。 ・排泄物により、黒く汚れることがある。

各論作成日:2023年11月10日 必ずラベルを確認してから農薬を使用してください。

表 農薬登録における適用作物名のうち、とうもろこし（子実）、未成熟とうもろこし（スイートコーン）、ヤングコーン（ベビーコーン）に使用できる農薬との関係

大作物群	農薬登録						
	穀類			野菜類 ^{注3)}		飼料作物	
中作物群	とうもろこし ^{注1)}						
作物名			とうもろこし ^{注2)} (子実)	未成熟とうもろこし		ヤングコーン	飼料用とうもろこし
作物名に含まれる別名、地方名、品種名等の例				スイートコーン		ベビーコーン	
備考			種子を収穫するもの	種子（ある程度成熟した雌穂）を収穫するもの		とうもろこしの幼果（雌穂）を収穫するもの	家畜飼料用に茎葉及び雌穂を収穫するもの
とうもろこし（子実）への使用	○	○	○	×	×	×	×
未成熟とうもろこし（スイートコーン）への使用	○	○	×	○	×	×	×
ヤングコーン（ベビーコーン）への使用	×	×	×	×	○	○	×

注1) 「とうもろこし」と記載がある農薬は、とうもろこし（子実）及び未成熟とうもろこし（スイートコーン）のどちらにも使用できる。但し、ヤングコーン（ベビーコーン）には使用できない。

注2) 「とうもろこし（子実）」と記載がある農薬は、未成熟とうもろこし（スイートコーン）及びヤングコーン（ベビーコーン）には使用できない。

注3) 「野菜類」と記載がある農薬は、ヤングコーン（ベビーコーン）に使用できるが、未成熟とうもろこし（スイートコーン）には使用できない。

注4) 「農薬の適用病害虫の範囲及び使用方法に係る適用農作物等の名称について」（平成31年3月29日付け 30消安第6281号 農林水産省消費・安全局農産安全管理課長通知）で「雑穀類」という大グループ名がなくなり、「穀類」という大作物群ができたが、「雑穀類」に既に登録のある農薬については、これまでどおり「雑穀類」に含まれる作物（とうもろこし、そば等）に使用可能。

無人航空機による散布農薬 例

※農薬の使用に際しては、必ず農薬のラベルに記載されている登録内容を確認してください。

更新年月日:2023/11/10

1. 稲

	用途	農薬の名称	有効成分の種類	作用機構分類	群馬県指定	適用作物名	主な適用病害虫名
1	殺菌	カスミン液剤	カスガマイシン	24		稲	いもち病
2	殺菌	ブラシンプロアブル	1. フェリムゾン 2. フサライド	U14、16.1		稲	いもち病、内穎褐変病、もみ枯細菌病
3	殺菌	モンガリット1キロ粒剤	シメコナゾール	2(G1)		稲	稲こうじ病、紋枯病
4	殺虫	スタークル液剤10 スタークルメイト液剤10	ジノテフラン	4A	抑制 指導農薬	稲	ウンカ類、カメムシ類
5	殺虫	キラップフロアブル	エチプロール	2B		稲	ウンカ類、カメムシ類
6	殺虫殺菌	アミスタートレボンSE	1. エトフェンプロックス 2. アゾキシストロビン	3A、11	抑制 指導農薬	稲	いもち病、紋枯病、ウンカ類、カメムシ類
7	殺虫殺菌	トライトラムフロアブル トライクフロアブル	1. エチプロール 2. テブフロキン	2B、U16		稲	いもち病、稲こうじ病、ウンカ類、カメムシ類

2. 麦類

	用途	農薬の名称	有効成分の種類	作用機構分類	群馬県指定	適用作物名	主な適用病害虫名
1	殺菌	チルト乳剤25	プロピコナゾール	3		小麦	赤かび病
						大麦	赤かび病
2	殺菌	トップジンMゾル	チオファネートメチル	1		小麦	赤かび病
						麦類(小麦を除く)	赤かび病
3	殺菌	ワークアップフロアブル	メコナゾール	3		麦類	赤かび病、赤さび病、うどんこ病

3. 大豆

	用途	農薬の名称	有効成分の種類	作用機構分類	群馬県指定	適用作物名	主な適用病害虫名
1	殺虫	プレオフロアブル	ピリダリル	UN		だいず	ハスモンヨトウ